

満面の笑みを浮かべる利用者さんと上田さん。この日は体調の管理や爪切りなどの支援を行った



伊藤準也  
が行く  
Vol.53

成増訪問看護  
ステーション

# みんな、ほっこり。

伊藤準也は今回、精神疾患の人たちに対する訪問看護を中心に、成増訪問看護ステーション（東京都板橋区）を訪ねた。都会での精神科領域の訪問看護とはどのようなものなのか。その現場と取り組みを取材しました。

「来てくれて嬉しい」と利用者  
その一言で疲れもふっとと

伊藤 先ほど看護師の上田幸子さんと同行して訪問先を訪ねましたが、笑顔がとてもチャーミングな利用者さんでした。上田さんの声かけにもユーモアを交えながら答えておられて、お二人の間にもとてもよい関係が築けていることが、こちらにも伝わってきました。

上田 ありがとうございます。実は先週、訪問した際に（利用者の男性に）取材の許可をいただいたんですが、その際に、「カメラ（伊藤）がくる」とって話したんです。それもあって、最初は少し緊張していましたが、大丈夫かなって思いましたが、途中から笑顔になったので、よかったです。昨晚もよ

く眠れたみたいで、「寝過ぎた」とって言っていましたね（笑）  
伊藤 週に1回の上田さんの訪問を心待ちにされているようで、「来てくれて嬉しい」と言っていましたね。

上田 とても嬉しいです。  
伊藤 上田さんは昨年の7月からこちらで働いていますけれど、以前は、身体訪問看護をされていたと聞きまして、どうですか？

上田 全然、違います。精神疾患がある人って繊細というか、細やかなんです。ちょっとしたことでも体調が変わって無表情になったり、表情が曇ったり。私はまだその変化に気付けないうことも多くて。行き届かないところがたくさんありますが、笑顔で「ありがとうございます」と言っていたら、疲れが

この地域は道や一歩も多いから、利用者への移動は自転車基本。悪くても自転車だ



病院から地域へという大きな改革が精神科領域でも始まっていることを実感した。彼らの頑張りに期待したい

伊藤準也  
が行く  
Vol.53

ふきとびます。  
伊藤 今日は何件、回られるのですか。  
上田 6件です。あと3件です。  
伊藤 がんばってください。  
上田 ありがとうございます。

## 増える高齢者施設への訪問 発達障がいも支援するケースも

伊藤 さて、甘利さん、こちら（成増訪問看護ステーション）は精神疾患がある利用者さんを中心に行っている事業所だと聞いています。

甘利 はい100%、精神疾患のある方ですが、認知症の方にもご利用いただいています。事業所は平成9年開設なので、23年目に入りました。現在は11人の看護師で262人の利用者さん宅を訪問しています。  
伊藤 ここへは道が細いし、一方通行も多い。たいへんでしょう。

甘利 移動は自転車です。雨が降っても、風が吹いても（笑）  
伊藤 ははは、上田さんもそうでした。今日取材させていただいた訪問先は老人ホームでしたが、ご自宅以外のところにも訪問されるのですか。

甘利 増えていきます。老人ホームだけでなく、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）、生活介護施設にも訪問しています。もともと

ご自宅で住んでいた利用者さんが、病気の進行や年齢とともに自立した生活が難しくなり、施設に移られたというケースも多いです。  
伊藤 自宅だと24時間のサポートは難しいけれど、施設なら職員が見守っているから安心でしょう。

甘利 施設職員との連携は大事です。  
伊藤 この母体は、精神科医療を行う成増厚生病院です。地域に開かれた精神科医療を実践している病院ということで、僕も一度、取材で入院患者さんを訪ねたことがあります。

甘利 いつでも相談に乗ってくれますし、入院の必要があるときにはすぐに対応してもらえます。助かります。  
伊藤 最近では発達障がいや引きこもりが社会的な関心事になっていますが、そういうお子さんなどのいるご家族からの依頼もありますか？

甘利 この前も10代のお子さんのご家族から、立て続けに相談がありました。

**PROFILE**  
成増訪問看護ステーション  
甘利裕子さん



看護師、精神保健福祉士、成増厚生病院の研修医を経て、平成13年から成増訪問看護ステーションに勤務。

